

岩手国体(9、10月) ブロック予選最終日は28の出場権を争う国体中国 日、岡山市などで3競技

があつた。岡山はホッケーが少年男子が決勝で鳥取を4-3で下し、開催を決めた。体操は成年男子、少年男女の3種別が地でブロック予選が免除されれた岡山国体(2005年)以来の本大会出場を決めた。体操は成年男子、少年男女の3種別が

予選突破した。(○は代表)

◇体操◇

よる

【少年男子】決勝 ○島根
33-5広島

岡山57年ぶり突破

ゴール前の混戦から岡山のMF三浦の狙い澄ましたシュートがネットを揺らした。ホッケー少年男子決勝。勝ち越しゴールの直後、試合終了のホーンが鳴る。1959年以来、57年ぶりの中国ブロック予選突破。

「奇跡だよ、奇跡」。選手たちに胴上げされた妹尾監督は何度も繰り返した。

メンバー18人中17人が1、2年生の岡山に対し、鳥取は体格と経験で勝る3年生中心。しかも先の全国総体で16強入りした八頭高の単独チームだ。中国大会で敗れた岡山勢にとつて「格上の相手」(妹尾監督)だった。

しかし選手は果敢に戦う。攻撃は激しいプレスに遭いながら三浦を起点にパスを丁寧につないで相手を搔きぶり、守備ではD

ホッケー少年男子

F井上らが懸命に体を寄せてボールを奪取。全員が勝利を信じて最後まで足を止めず、全国総体4強の横田高勢で固めた島根を撃破した前日の準決勝に続く「ジャイアントキリング(大物食い)」をやつてのけた。中学時代に全国3位の実績を持つメンバーもいる瀬戸南、瀬戸高が軸のチーム。週末に限られていた合同練習を7月以降は平日も行い、体力強化と戦術の徹底を図った。さらに今予選が始まつた25日からは会場近くの瀬戸南高の合宿所で寝食を共にし、一

体感も高まる中で決戦の日を迎えた。固く閉ざされていた扉をついにこじ開けた。「ここから再びレギュラー争いをして個々の力をもっと上げる。気を緩めず練習したい」とGK斎藤。悲願の舞台、旋風の予感が漂う。(亀井良平)

格上連破 “奇跡”の番狂わせ



ホッケー少年男子で国体出場を決め喜ぶ岡山の選手=瀬戸町江尻レストパーク

3-0山口	【少年女子】決勝 ○島根
4-3鳥取	【少年男子】決勝 ○岡山
4-0島根	【成年女子】決勝 ○広島
3-2鳥取	【成年男子】決勝 ○島根

◇ホッケー◇

(瀬戸町江尻レストパーク)

【成年男子】①○岡山②広島③鳥取④島根⑤山口

【成年女子】①○広島②岡山③鳥取④島根⑤山口

【少年男子】①○岡山②○広島③鳥取④島根⑤山口

【少年女子】①○広島②○岡山③鳥取④島根⑤山口

島根42-10山口	【成年男子】リーグ戦 広島12-10岡山

◇ラグビー◇

(美作ラグビーサッカーフィールド)

【成年男子】リーグ戦 広島12-10岡山

33

5広島

○島根

○岡山

○山口

○鳥取

○広島

○山口

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。